

ICMPC10

The 10th International Conference on Music Perception and Cognition

第10回国際音楽知覚認知会議 (ICMPC10)

市民交流企画

1. 響き合う現代性～北大ポブラチェンバロの国際・市民交流

- 日 時：2008年8月28日（木）17：30～19：00
■場 所：紀伊國屋書店札幌本店 1階 インナーガーデン

2. 音楽を科学する世界をのぞいてみよう！

- 日 時：2008年8月29日（金）10：00～16：00
■場 所：札幌市モエレ沼公園内「ガラスのピラミッド」

- 主 催：ICMPC10
■後 援：札幌市、札幌市教育委員会、北海道教育委員会、㈱紀伊國屋書店、
チャイルド・リサーチ・ネット (CRN)



目 次

8/28 (木)	響き合う現代性～北大ポプラチェンバロの国際・市民交流	2
8/29 (金)	音楽を科学する世界をのぞいてみよう！	
	公開フォーラム：子どもの発達と音楽（ミニ・コンサート付き）	4
	ポスター発表めぐり（ガイド付き）	6
	平曲（平家琵琶）演奏	14

2008年8月28日(木)



響き合う現代性～北大ポプラチェンバロの国際・市民交流

紀伊国屋書店 1F sapporo 55 インナーガーデン
(17:30～19:00)

共催:北海道大学総合博物館チェンバロアカデミー
助成:(財)ロームミュージックファンデーション
協賛:極東貿易有限会社(ヴィオラ・ダ・ガンバ貸借)



札幌市民が憩う札幌駅前のガラス張りの紀伊国屋書店ロビーホールで、台風で倒れた北海道大学のポプラの廃木を利用して作成されたクリストフォリ式チェンバロと古楽器を題材に、札幌市民と ICMPC 10 参加者が交流します。北海道大学総合博物館チェンバロアカデミーでこれまでも市民向けの演奏を行なってきたチェンバリストの水永 牧子さんと ICMPC 10 参加者有志による市民向けの公開演奏会です。トークは日本語が中心ですが、一部英語を通訳するところもあります。

演奏者 (ICMPC10 参加者)

- 岡ノ谷 一夫 博士 (日本・理化学研究所・リュート)
- L. J. トレーナー 教授 (カナダ・マックマスター大学・フルート)
- D. W. ジェリー 氏 (カナダ・マックマスター大学・フルート)
- D. モエランツ 博士 (ベルギー・ゲント大学・ヴィオラ・ダ・ガンバ)

チェンバロ演奏

水永 牧子 (北海道大学博物館チェンバロアカデミー)

公開トークセッション講師

小俣 友輝

(北海道大学総合博物館チェンバロアカデミー／北海道大学総合博物館)

藤井 健吉

(北海道大学総合博物館チェンバロアカデミー／北海道大学大学院医学研究科)

水永 牧子 / チェンバロ

東京生まれ。幼少の頃より桐朋学園子供のための音楽教室にて学ぶ。桐朋学園大学古楽器科卒業。フライブルク音楽大学大学院を卒業後、最優秀の成績にてドイツ国家ソリストディプロマを取得(チェンバリストとしては同校初めて)。1999年モントリオール国際チェンバロコンクール第2位入賞。M. ゴネヴィルの現代作品を演奏し最優秀賞も受賞。ドイツ留学中は、「シュトゥットガルト・バッハ・アカデミー」にて作曲家 S. グバイドウリーナとの共同プロジェクトに参加、また M. アンドレとの共演など、ヨーロッパ各地で演奏活動を行った。2001年東京にてソロリサイタル・デビュー。2002年「D. スカルラッティ・ソナタ集」(アントレ)、2003年「夢見る雨」、2006年「イングリッシュ・ガーデン」(以上ビクターエンタテインメント)の3枚のソロCDがリリースされ、



いずれも高い評価を得ている。2003年2月、日本フィルとJ. S. バッハ「チェンバロ協奏曲」を共演。北九州国際音楽祭、東京オペラシティリサイタルシリーズ「B→C」に出演するなど、チェンバロ界の新星として今後の活躍が期待されている。ソロ以外でも“ラ・フォンテーヌ”のメンバーとして活発な演奏活動を行っている。第11回古楽コンクール・アンサンブル部門(山梨)最高位入賞。2000年ブルージュ国際古楽コンクールのアンサンブル部門第2位、併せて聴衆賞を受賞。これまでに4枚のCDをリリースのほか、ロンドンSBC音楽祭、ヨーク古楽祭などに出演。

2001年度文化庁在外研修員。ピアノを坂井 由紀子、チェンバロを故鍋島 元子、R. ヒル、M. ベーリンガー、作曲を三瀬 和朗、橋本 礼子、オルガンを水野 均、C. シュノーレルの各氏に師事。

公式 HP <http://neige.fem.jp/makiko-mizunaga/>

◆メッセージ ～ポプラチェンバロの演奏によせて～

2004年、台風の影響で倒壊したポプラ並木には多くの方が心を痛めました。その後、ポプラの木は見事にチェンバロとなって生まれ変わりました。2年前、クラーク会館で、私がこのポプラ・チェンバロのお披露目演奏をした時の感動は忘れられません。場内には期待感が溢れていました。ポプラの楽器は、現在北大の博物館で大切に保管され多くの人に愛されています。今回の私の役目は、これを奏で、ポプラの音を皆さんの耳に届けること。どんな音色が引き出せるのか、楽しみです。

2008年8月29日（金）

音楽を科学する世界をのぞいてみよう！

札幌市モエレ沼公園内ガラスのピラミッド “HIDAMARI”

協賛：NAMM Foundation, ヤマハミュージック北海道

♪ 公開フォーラム：子どもの発達と音楽（ミニ・コンサート付き） ♪

アトリウム 1（11:00～13:30）

乳幼児の音楽知覚研究の第一人者である S. E. トレハブ氏を統括者に迎え、ユニークな一般市民向け公開フォーラムを企画しています。リユート奏者でもある岡ノ谷一夫氏は小鳥のさえずり学習と乳児の言語獲得の類似について、市民オーケストラ主席フルート奏者でもある L. J. トレーナー氏は人間生活で最も身近な「リズム」を巡っての、知覚と学習と脳の発達の関連について、G. シェーレンバーグ氏は音楽が人間の認知機能にどのような影響を及ぼすかについて、中田 隆行氏は、人工内耳装着児への音楽の効果について、わかりやすく解説します。解説の合間には、来日中のピアニスト、J. マルグリリス氏にピアノを演奏していただきます。トレハブ氏による全体の統括が終了したところで、乳幼児発達研究の第一人者である陳 省仁氏から、乳幼児発達と音楽との関わりについての本フォーラムについてコメントを頂き、フロアからの自由な質疑応答へとつなげていきます。最後に、再びマルグリリス氏より演奏していただき、フォーラムを終了します。

企画・司会：安達 真由美 准教授（北海道大学大学院文学研究科）

話題1：『バード・ソングとヒトのスピーチ：学習メカニズムにおける共通性』
岡ノ谷 一夫 博士（理化学研究所）

話題2：『動くことで感じる音楽ビート』
L. J. トレーナー 教授（マックマスター大学）

話題3：『子どもの発達における音楽の効果』
G. シェーレンバーグ 教授（トロント大学）

話題4：『人工内耳装着児の言語能力向上に果たす歌と音楽の役割』
中田 隆行 准教授（公立はこだて未来大学）

内容統括：S. E. トレハブ 名誉教授（トロント大学）

コメント：陳 省仁 教授（北海道大学大学院教育学研究院）

ピアノ独奏: J. マルグリス 教授 (アーカンサス大学)

【演奏予定曲目】(下記の中から演奏されます)

- | | |
|---------------|--------------------------|
| ♩ J. S. バッハ作曲 | 「アリア 二長調」 |
| ♩ F. シューベルト作曲 | 「即興曲 変ホ長調 Allegretto」 |
| | 「即興曲 変ホ短調 Allegro assai」 |
| | 「即興曲 変ホ長調 Allegro」 |
| ♩ J. マルグリス作曲 | 「アレクサンダーのための子守歌 変ホ長調」 |
| ♩ E. ドナーニ作曲 | 「カプリッチョ ヘ短調」 |

Jura Margulis (J. マルグリス) / ピアノ

ピアニスト J. マルグリス氏は、聴衆とのコミュニケーションを圧倒的に重要視する演奏と、幅広い音色の多様さ、そして技術の高さで知られている。ロサンゼルス・タイムス、ワシントン・ポスト、ドイツ紙では、彼の芸術性が賞賛され、鍵盤を通して伝わってくる「解釈の正統性」と「制御された強い想い」が特筆された。オーケストラとの共演では、ハリウッド・ボウルでのロシア国立交響楽団、C. デュトワ指揮によるモントリオール交響楽団、the Südwestrundfunk Orchestra、ヴェネズエラ国立交響楽団、プラハ交響楽団等が挙げられる。マルグリス氏のソロ・リサイタルは、別府音楽祭、ベルリン祭、スイスのベルビエ祭に加え、最近ではニューヨーク、シカゴ、ミネアポリス、セントルイス、ニューオリンズ、アトランタ、ダラス(以上アメリカ合衆国)、フランクフルト、ハンブルク、ベルリン、ザルツブルク、バルセロナ、バンコクで行なわれた。氏はこれまでに6枚のCDをソニー、Ars Musici、Oehms Classics から出している。マルグリス氏は、三代目のピアニスト／教師であり、ピアノ教育法は彼の芸術的視野の中で欠かすことのできない一面である。アメリカ国内を始め、ドイツ、イタリア、スペイン、ポルトガル、スロベニア、オーストリア、ロシア、日本でマスタークラスを定期的に行っている。

サンクト・ペテルズブルク(ロシア)生まれ。父であるピアニスト V. マルグリスの下、フライブルク音楽院(ドイツ)で研鑽を積む。後に、ボルティモア(アメリカ)にあるピーボディ音楽院にて、L. フライシャーに師事。現在、アーカンサス大学フルブライト・カレッジのピアノ科教授でもある。



♪ ポスター発表めぐり（ガイド付き） ♪

スペース 1 (11:00～16:00)

ICMPC10 では、会期中を通してポスター発表が行なわれます。最終日のポスター発表では、「音楽療法」、「進化論的見解」、「発達」、「神経科学と障がい」など、7 テーマで 26 件の演題が発表されます。

統括：荒川 恵子 教授（京都女子大学）
ガイド主任：貞方 マキ子 博士（ナイメーヘン情報認知研究所）
ガイド：木田 泉、正田 悠、奥村 安寿子、岩田 みちる、
長内 奈菜恵、堀内 正夫（北海道大学）

ポスターセッション 1 (11:00 – 13:00)

音楽療法 / 進化論的見解 / 発達 / 神経科学と障がい / コンピュータモデルと分析

♪ 高齢期のピアノ演奏学習による認知・能力への影響

5AM2-S02-01

The Effect on Cognition and Ability by Learning to Play the Piano in Senior Year

Jie Ren¹, Xiaoping Luo²;

¹South China Normal University, China; ²Xinghai Conservatory of Music, China

高齢者の認知処理の速さ、ワーキングメモリの容量ならびに流動的知能にピアノ学習がどのような影響を及ぼすのかを調べました。ピアノ学習は、認知能力の発達に良い影響をもたらしましたが、流動的知能には限られた影響しかもたらさないことがわかりました。

♪ 認識力が保たれている高齢者における音楽療法、アニマルセラピー、ならびに「ディスカッショングループ」の心理社会的影響の比較

5AM2-S02-03

A Comparison of the Psychosocial Effects of Music Therapy, Animal-Assisted Therapy and a 'Discussion Group' in Cognitively Intact, Elderly Participants

S.R. Toukhsati, G. King, L. Greenfield; Monash University, Australia

音楽療法が、認識力を保っている高齢者に与える心理社会的な影響を調べるため、音楽療法とアニマルセラピー、ディスカッショングループの効果を比較した研究です。音楽療法を行った後で認知能力や生活の質(QOL: Quality of Life)が向上する傾向が見られました。

♪ 精神衛生的問題を持つ個人による音楽的参加の
解釈現象学的分析(IPA)研究 5AM2-S02-05

**An Interpretative Phenomenological Analysis (IPA) Study of Musical Participation
by Individuals with Mental Health Problems**

Julie C. De Simone, Raymond MacDonald; Glasgow Caledonian University, UK

精神的に問題を抱えた人々に、音楽活動に参加してもらい、そのときの経験についてインタビューを行いました。インタビューは解釈現象学的に分析され、音楽活動によって精神衛生的な症状がある程度改善されたことが示されました。

♪ 話し言葉と歌の発達の進化論的、神経生物学的基礎 5AM2-S02-07

Evolutionary and Neurobiological Foundations of Speech and Song Development

Wilfried Gruhn; Freiburg University of Music, Germany

進化心理学の知見から、音楽と言語は共通の起源を持っていることが示唆されています。本研究では、動物(鳥)と幼児の音声学習に関する神経生理学的研究をまとめました。ここから、両者の基盤となる神経メカニズムと構造的特徴は共通の聴覚-発声モデルに統合されることが示されました。

♪ 子どもの発達における家庭の音楽環境の役割(パート2):
生後2年間の乳児の身体・運動発達における音楽的経験の影響 5AM2-S02-09

**The Role of Musical Environment at Home in the Infant's Development (Part 2):
Exploring Effects of Early Musical Experiences on the Infant's Physical and Motor
Development During the First 2 Years**

木田 泉, 安達 真由美; 北海道大学

家庭の音楽環境と乳児の身体・運動発達の関連を調べた研究です。家庭の音楽環境、特に母親の音楽に対する意識や行動が、生後3か月から2歳までの乳児の運動機能発達に与える影響を、約30人の母子を対象として縦断的に調べました。

♪ 子どもの発達における家庭の音楽環境の役割(パート4):
母親の音楽との関わりが子育てに与える影響 5AM2-S02-11

**The Role of Musical Environment at Home in the Infant's Development (Part 4):
Japanese Mothers' Involvement in Music and Its Effects on Parenting**

松田 久美¹, 安達 真由美²; ¹札幌福祉保育専門学校, ²北海道大学

音楽との関わりが、母親の子どもや子育てに対する感情、信念に与える影響について検討することを目的として、音楽との関わり状況を捉え、音楽との関わりが強い「積極群」と、そうではない「消極群」とに分類し、比較検討しました。

♪ 右半球側頭葉損傷例におけるピッチ変化の検出障害：
音楽刺激と言語刺激の比較

5AM2-S02-13

Deficits in Detecting Pitch Violations in Music and Language in Patients with Right Temporal Lobe Lesion

足立 耕平¹, 中田 隆行²;¹長崎純心大学;²公立はこだて未来大学

右半球側頭葉に損傷のある3例を対象とし、音楽刺激と言語刺激とでピッチ(音の高さ)の変化の検出成績に違いがあるかを検討しました。その結果、統制群と比較し全例で音楽刺激よりも言語刺激の方がピッチ変化の検出成績が低い結果となりました。

♪ 聴覚情報処理過程における弱い中枢性統合の影響

5AM2-S02-15

The Influence of Weak Central Coherence in Auditory Processing

渡辺 隼人, 室橋 春光; 北海道大学

自閉症という発達障害は、物事の全体に注意する事が困難と考えられています。本研究は、健常大学生であっても、相対的に自閉症傾向が高い場合、聴覚的な全体傾向の把握が困難になることを示します。この事は、自閉症を理解する上で重要だと考えられます。

♪ 音楽でヒトの運動や行動はどう変化するか

～レット症候群での検討～

5AM2-S02-17

Change of Movement and Behavior by Music in Patients with Rett Syndrome

呉 東進, 小西 行郎; 東京女子医科大学

音楽のリズムは、赤ちゃんから高齢者まで、健常者から障がい者まで、ヒトの運動を誘発し変化させます。レット症候群(運動や言語能力が低下する神経難病)での調査から、音楽に対して手と体が逆の反応を示すことが判明し、そのメカニズムについて考察しました。

♪ エレキギター演奏を対象としたコード名推定システム

5AM2-S02-19

Chord Estimation Using Chromatic Profiles of Sounds Played by an Electric Guitar

此木 康至, 江村 伯夫, 三浦 雅展; 龍谷大学

本研究では、エレキギターを用いたコード演奏に対してそのコード名をリアルタイムに推定するシステムを開発しています。その手法として、ギターから出力される音響信号の特徴と過去に演奏されたコード進行の特徴という2つの側面からコード名推定を行っています。

♪ ジャズボット: 擬人化された音楽認知研究ツール

5AM2-S02-21

Jazzbot: An Anthropomorphic Music Cognition Research Tool

Charles Hart, Michael Connolly Brady; Indiana University, USA

自律的にサクスを演奏するロボット「ジャズボット」を紹介します。サクスは吹き方のコントロールが難しく、空気圧と指使いの組み合わせを変化させなければなりません。我々は共同注意の印象を考慮したり、音楽的やりとりを促進したりするために、ジャズボットに人間らしい顔の特徴を付け加えました。

♪ ソロピアノ用ジャズ風和音列生成システム

5AM2-S02-23

A System Generating Jazz-Style Chord Sequences for Solo Piano

渡辺 淳子¹, 渡辺 佳央理¹, 江村 伯夫², 三浦 雅展², 柳田 益造¹;

¹同志社大学; ²龍谷大学

入力された旋律と和音名列に対して、ソロピアノ演奏用のジャズ風和音列生成システムの構築を行っています。具体的にはポピュラー音楽の理論に記載されている和音の配置法に基づいて、ジャズ特有の色彩豊かな和音列の生成を可能とするシステムです。

♪ 音楽キオスク: 聴取者が作曲者になるとき

—情緒的、相互的な音楽に向けた探索

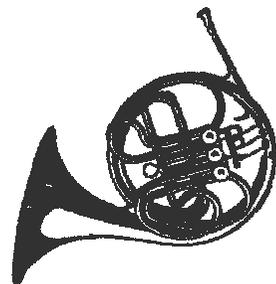
5AM2-S02-25

MusicKiosk: When Listeners Become Composers — An Exploration into Affective, Interactive Music

Laurence Pearce¹, Lassi A. Liikkanen²;

¹XIM Ltd, UK; ²Helsinki Institute for Information Technology, Finland

音楽キオスクとは、使い手の声から抽出した情動状態に基づいて作曲をするシステムです。我々の発表ではこのシステムのデモンストレーションを行い、発展途上のインタラクティブで情緒的な作曲システムが実現可能となってきたことを示したいと思います。



ポスターセッション 2 (14:10 – 16:00)

音楽聴取と演奏 / 発達 / 方法論

♪ 音楽のジャンルと映画のジャンルの知覚された調和： 色、光、様式、時代の組み合わせ

5PM1-S02-2

Perceived Fitness of Music and Film Genre: Color, Light, Style, and Period Combinations

Blas Payri; Universidad Politécnica de Valencia, Spain

日本のアニメから抽出した72の静止画ならびに様々なジャンルから選んだ72の音楽を用いて、音楽と映像が体系的に関係しているのかを調べました。結果、音楽が異なると、それに調和する静止画も異なるということが示されました。

♪ VirSchool—

ヴァーチャルリアリティや教育的3Dゲームの学習に理想的な サウンドトラックを発見するための、テンポと音高に関する探究

5PM1-S02-4

VirSchool — Investigations of Tempo and Pitch Manipulations on the Way to Finding an Ideal Soundtrack for Learning in Virtual Realities and Educational 3D Games

E. Fassbender, D. Richards, William F. Thompson, A. Bilgin,

A. Taylor; Macquarie University, Australia

仮想世界で行われる学習に対して音楽がいかなる効果を持つのかについて調べました。あるコンピュータゲームのサウンドトラックをBGMにしていた学習者ならびに仮想空間に没頭していた学習者はより多くの学習した情報を思い出すことができました。

♪ 赤ちゃんの泣き声の発達にもなう変化

5PM1-S02-6

Development of Infant Cry Acoustics: A Basis of Musical and Linguistic Skills

野中 由里, 片平 健太郎, 柴 玲子, 岡ノ谷 一夫;

理研化学研究所 脳科学総合研究センター

人間の赤ちゃんは他の霊長類よりも大きな声で、たくさん泣きます。泣き声は成長とともに音響的、構造的に変化してゆきます。この発達変化は、赤ちゃんと養育者の相互作用により促進され、言葉や音楽を扱う際の基本となる行動であると考えています。

♪ 子どもの発達における家庭の音楽環境の役割(パート1):

日本の母親による「胎教」の把握と実践、
また分娩と子どもの発達に対する「胎教」の効果

5PM1-S02-8

**The Role of Musical Environment at Home in the Infant's Development (Part 1):
Japanese Mother's Understanding and Practice of Taikyo and Its Effects on the
Mother's Labor and the Infant's Development**

赤坂 明生¹, 安達 真由美², 千野 仁志²;¹考動力研究会;²北海道大学

巷に溢れる「胎教」に関する情報を日本の母親がどのように受けとめ、どのようにそれを実践しているか、また「胎教」の実践が出産や子どもの発達にどのような影響を与えるのかについて、母親へのインタビュー調査を通じて検討したものです。

♪ 子どもの発達における家庭の音楽環境の役割(パート3):

3ヶ月児の音楽に対する反応とその後の運動発達の関係について

5PM1-S02-10

**The Role of Musical Environment at Home in the Infant's Development (Part 3):
3-Month-Olds' Responses to Music and Their Subsequent Motor Development**

安達 真由美¹, 赤坂 明生², 木田 泉¹, 今野 俊介¹;¹北海道大学;²考動力研究会

3・4ヶ月児を対象に、音楽がある時とない時とでの運動反応の大きさを比較するとともに、その反応における個人差が、その後の運動発達に関係するかどうかを検討しました。

♪ 解釈現象学的分析と音楽心理学: 概観

5PM1-S02-12

Interpretative Phenomenological Analysis and Music Psychology: An Overview

Raymond MacDonald, Paul Flowers, Jane Oakland, G.N. Caldwell, Julie C. De Simone;
Glasgow Caledonian University, UK

音楽心理学における、質的データの収集や分析のための方法論として、解釈現象学的分析(IPA)を紹介します。解釈現象学的分析は、多様な学問領域やトピックを超えた研究方法であり、多くの質的研究に貢献する可能性を持っています。



♪ 音楽の反復聴取がもたらす複雑な効果

5PM1-S02-14

The Complex Dynamics of Repeated Musical Exposure

Patrick C.M. Wong¹, Anil Kumar Roy¹, Elizabeth Hellmuth Margulis²;

¹Northwestern University, USA; ²University of Arkansas, USA

何度も音楽を聴くことで音楽の好みが変化すること、記憶などの知覚的、認知的なパフォーマンスの関係について調べました。結果、反復聴取に伴って音楽の好みは逆U字型に増減しました。好みは多くの認知課題と複雑に関係しているため、なお謎に包まれています。

♪ メロディから音色の情報を排除した場合の

ジャンルの再認に関する地上較正実験

5PM1-S02-16

A Ground-Truth Experiment on Melody Genre Recognition in Absence of Timbre

José M. Iñesta, Pedro J. Ponce de León, José L. Heredia-Agoiz;

Universidad de Alicante, Spain

音楽のジャンルを認識するコンピュータモデルを評価するため、ヒトが音色情報なしでどの程度音楽のジャンルを認識できるのかを調べました。ヒトは、エラー率18%で音楽のジャンルを認識することができ、この値はコンピュータシステムを評価するための基準値として用いることができます。

♪ ビデオゲームにおける音楽の役割:

自分が選択した音楽ならびに実験者が選択した音楽が ドライビングゲームの成績と体験に及ぼす影響

5PM1-S02-18

The Role of Music in Videogames: The Effects of Self-Selected and Experimenter-Selected Music on Driving Game Performance and Experience

Gianna Cassidy, Raymond MacDonald; Glasgow Caledonian University, UK

参加者自身が選んだ音楽と実験者が選んだ音楽がドライビングゲームの成績に及ぼす効果を比較しました(実験1)。さらに、テンポの役割(実験2)ならびに声の役割(実験3)を調べました。結果、ゲームの成績には自分で選んだ音楽の効果が見られました。

♪ 私たちは、どんなときに音楽を聴いて違和感を感じるのだろうか？

5PM1-S02-20

When do People Feel a Sense of Incongruity in Listening to Music?

谷口 高士; 大阪学院大学

どんな名曲の名演奏でも、それを聴く場面や状況によっては不愉快だったり変に感じたりすることがあります。この研究では、そのような、音楽を聴いて「なんだかよく分からないけれどしっくり来ない」感覚、すなわち、音楽に対する違和感に注目しました。音楽に対して違和感を抱く場面を調査によって収集、分類した結果を報告します。

♪ 日本の若者における音楽の流行ーJ-POPのブームに関連して

5PM1-S02-22

Musical Trends Among Japanese Young People : The Boom of 'J-Pop'

松本 じゅん子¹, 小林 翔子^{2,1}長野県看護大学;²須坂市役所

本研究では、日本の若者の音楽への嗜好と、ブームになるJ-POPのミュージシャンの魅力との関連を調べました。その結果、ブームになるミュージシャンは、音楽を好む若者というよりも、流行を追う若者によって支持されている傾向があることが示唆されました。

♪ 軽度認知機能障がい者と

早期段階の認知症患者における音楽の短期記憶

5PM1-S02-24

Short Term Memory for Music in Patients with MCI and Early Stage of Dementia

Manuela Kerer, Josef Marksteiner, Elisabeth Weiss; Medical University Innsbruck, Austria

軽度認知機能障がい者(MCI)ならびに早期段階の認知症患者に対して音楽の短期記憶を調べたところ、ほとんど全てのタスクでそれらの症状を持たない人よりも有意に成績が低かったことが示されました。さらに、軽度認知機能障がいを持つ患者は早期段階の認知症患者よりも成績がよかったことも示されました。

♪ 二拍子 vs. 三拍子:

脳磁図でみる音楽家の脳の活動には多数の領域に渡り
拍子の違いがあらわれる

5PM1-S02-26

Thinking in Two vs. Three Beats : Metric Structure is Represented in Multiple Cortical Areas as Revealed by Magnetoencephalography in Skilled Musicians

藤岡 孝子, Benjamin Zendel, Bernhard Ross; Rotman Research Institute, Canada

熟練した音楽家が強弱なしのメトロノーム音を聴いたときに、それらの音を二拍子あるいは三拍子だと考えることによって、脳の活動が異なるのかを調べました。その結果、脳は運動のイメージや強拍、弱拍の時系列の違いとして拍子の構造を処理しているのではないかと示唆されました。



～ 平曲（平家琵琶）演奏 ～

アトリウム 2 (16:10～17:10)

助成:(財) ローム ミュージック ファンデーション

平曲は、『平家物語』をく口語りする藝能です。『平家物語』は、鎌倉時代初期に成立しました。内容は、平安時代末期 70 年ほどの歴史を、平家一門のほろびの様相を主軸にして記しています。

平曲では、『平家物語』を約 200 に区切って語ります。10 ほどの曲節を、文章に組み合わせて語ります。く口説・くどき」という曲節が最も基本で、語りだしはほとんどこの曲節であるほか、登場回数も圧倒的で、『平家物語』音楽の世界を支えています。また、荘重な内容・対句表現などはく中音・ちゅうおん)で語り、武士の躍動的な行動はく拾・ひろい)で語ります。

平曲は、鎌倉室町時代は盲目の琵琶法師によって伝承されました。江戸時代になって晴眼者の伝承もできました。現在は、名古屋の今井勉検校、東京の橋本 敏江が、それぞれの流れを受け継いでいます。



演奏曲目

祇園精舎（巻第一）

『平家物語』の序章。すべての現象・存在は変化するという仏教の真理を、『平家物語』文学の世界を支える根本思想として、釈迦の話や、中国・日本の先例をもとにしながら提示しています。

竹生島詣（巻第七）

寿永二年(1183)四月、北陸で勢いを増した木曾義仲軍を追討するために、平家軍は都を発ちました。途中、平経正が琵琶湖に浮かぶ竹生島をみて、島に祀られる神に参詣し琵琶演奏を奉納したところ、神が白龍となって現れました。

奈須与一（巻第十一）

元暦二年(1185)二月、四国の屋島での源平の戦いのひとこまです。一日の戦いが終わる頃、海上の平家軍は、小舟に載せた扇的的用意し、これを射よと挑発しました。

源義経率いる源氏軍の中から選ばれた奈須与一は、北風にあおられる的を、見事射抜いて、敵味方の喝采を浴びました。